

単元名:付き合い方の違いを探ろう

科目名	中国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年/年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	人とのつきあい	言語レベル	4	必要時間数	6時間

I 単元目標

日中における人との付き合い方の違いについて、インタビューや資料調査の結果を踏まえて考察し、レポートにまとめたり、相互理解を深めるための「付き合う法」を発表したりすることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる						
できる						
つながる						

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
<ul style="list-style-type: none"> ◆中国人にインタビューして意見を求めることができる。 ◆日本人にインタビューした内容を中国語でまとめることができる。 ◆テーマを見つけ、それについてレポートにまとめることができる。 ◆レポートの評価・意見を読み取り、その内容について考察することができる。 ◆「付き合う法」について自分の意見を発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人の呼び方・呼びかけについて、その違いに気づく。 ◆握手とお辞儀、プライバシー感覚や身体接触などについて、違いに気づく。 ◆贈り物の渡し方・もらい方について、違いに気づく。 ◆相手の好意に対するお礼として「お返し」に対する価値判断基準について、違いに気づく。 <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆人との付き合い方は、価値観、習慣、社会構造などさまざまな要因が絡んでいることを知る。(知識理解) ◆グループで協力してレポートをまとめることができる。(協働) ◆人と付き合う法の違いについて、さまざまな考察を加え、相互理解を深める方略を見出すことができる。(高度思考) <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>

コミュニケーション能力指標	<p>【人とのつきあい】</p> <p>4-c. 人とつきあううえで大事にしていることについて、作文を書くことができる。</p> <p>4-d. 日本と相手の国の贈答習慣について調べ、それぞれの特徴について、文章でまとめたり、話しあったりできる</p> <p>4-e. 場面に応じて、「相手に失礼な表現」を避けたやりとりができる。</p> <p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>
---------------	--

Ⅲ 学習活動と評価

プレコミュニケーション活動（語彙・表現習得活動）	学習を助けるための評価（形成的評価）
<p>◆ペアになって、人とつきあううえで大事にしていることについて、互いにインタビューをする。【4-c,e】</p> <p>◆人とつきあううえで大事にしていることについて、作文を書く。【4-c】</p> <p>◆日本と相手の国の贈答習慣について調べ、それぞれの特徴について、文章でまとめたり、話しあったりする【4-d】</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p>◆人とつきあううえで大事にしていることについて、作文を書く。（表現の適切さ、理由を示し方、論理性、自己分析など）</p>
コミュニケーション活動（学習シナリオ）	
<p><場面状況> 中国語のクラスでは、日中の人との付き合い方の違いについて、グループごとにテーマを見つけ、それぞれレポートにまとめることにした。</p> <p><活動の流れ> 2グループに分かれ、それぞれ日本人の友人がいる中国人、中国人の友人がいる日本人数名にインタビューし、日ごろ感じている人との付き合い方の違い、疑問、誤解を聞き取る。それらの違いや疑問、誤解の原因について考え、話し合う。 通信手段やスタイル、贈答習慣、人と人との距離、言葉遣い、親戚付き合い、おごる文化、お返し文化などについて調べ、根底にある考え方について考察し、聞き取った違いや疑問、誤解の原因を解明する。自分たちが聞き取った事例を踏まえ、考察で見つけた答えやその根拠についてレポートにまとめる。事前に話し合っ得た結論と、いろいろ考察して得た結論を比較し、理解の深まりについてもレポートに盛り込む。 インタビューに答えてくれた人にレポートを送り、参考価値、客観性や説得力について意見をもらう。 返された意見について考察し、相互理解を深めるための「付き合法」を個人でレポートにまとめ、発表する。</p>	
<p><目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)> ◆グループのレポート(テーマの独創性、中国事情をきちんと調べているか、内容の興味深さ、中国語の表現力など) ◆個人の発表(グループレポートの評価・意見に基づいた内容になっているか、中国語の正確さ、オリジナリティ、わかりやすさなど)</p>	
<p><使用教材・教具> インターネット、ICレコーダー</p>	
教室外(人・モノ・情報)との連繋	他教科の内容との連繋
インタビューの相手	